

編集後記

本号では、当財団が課題選定と利用支援を実施しているスパコン「京」の開発メンバーである(独)理化学研究所計算科学研究機構の渡邊統括役から幼少の頃の回想をまじえて示唆に富む巻頭言を頂きました。

さらに、高度情報科学技術分野でのご研究等、専門家のご協力を頂き、刊行の運びになりましたことを、厚く御礼申しあげます。

さて、今や一家に一台と言われるパソコンですが、9月28日は、そのパソコンの記念日です。

1979(昭和54)年、日本電気(NEC)がパーソナルコンピュータPC-8000シリーズを発売し、ブームの火付け役となったその発売日です。

その頭脳部である世界初のCPUは、日本の電算機メーカーであるビジコン社から汎用LSIの開発依頼を受けて、インテル社が開発し、1971年に発売されたインテル4004とされています。

世界初のパソコンは、1975年に発売されたMITS社の組立式マイコンキットAltair8800で、日本では翌1976年にNECから発売されたTK-80が日本初のパソコンであると言われています。

販売を開始してから40年で、先進国での普及率は、世帯ベースで75%と言われるそうです。

その要因は、巻頭言で渡邊統括役が言われていた導入してすぐに使えるからだと思います。

また、今話題のスマートフォンでもAndroidがiPhoneに勝てない理由は使い勝手の優劣に起因しているといわれています。

どんなに性能が優れていても、使い勝手の悪い製品は市場には受け入れられないようです。

我々技術者の端くれとして、「パソコンの記念日」を記にこの現実を直視して開発にあたる必要があると考えます。(中村)